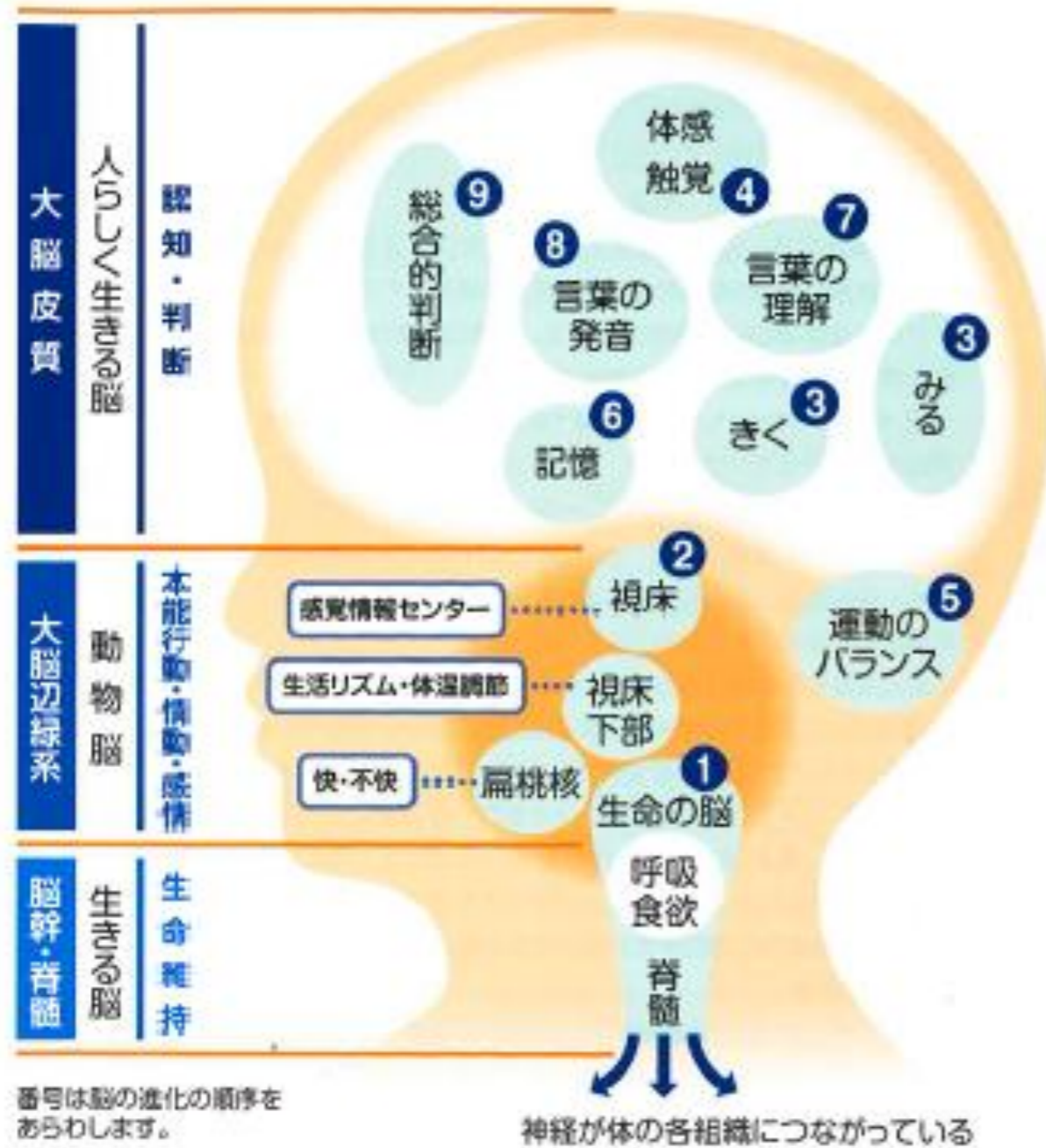


資料1-⑥ 脳を理解することは人間を理解することです

脳を理解することは人間を理解することです



子どもの発達の姿とあわせてみてください

人間は、人らしく生きる脳を持っています。この部分が発達することによって、動物にはない人間特有の、創造的な活動を行えるようになるのです。

絵の中の番号は、脳が進化してきた順番です。赤ちゃんの脳もこの順番で育っていきます。番号を追いながら見ていきましょう。

図の左側を見てください。下から「生きる脳」、「動物脳」、「人らしく生きる脳」と、この順番で脳は発達していきます。

「生きる脳」とは脳幹・脊髄のことです。①の場所です。呼吸や食欲など生命を維持するための機能を備えています。この部分は赤ちゃんがお腹の中にいる時から機能しています。

次に発達するのは「動物脳」です。人間以外の動物にもある脳の部分です。本能や情動、感情をつかさどる部分です。②を見てください。①の上であり視床と言ひ、視覚・触覚・聴覚・味覚の感覚情報を調整するセンターです。すぐ下には視床下部と呼ばれるところがあります。この部分は生活リズムをコントロールしています。3か月頃になって働き始めます。体温調節や、お腹がすいた、お腹がいっぱいなどの調整も視床下部でおこなっています。視床下部は、4歳まで成長していきます。視床下部の下には、扁桃核と呼ばれる快・不快をつかさどるところがあります。

次に発達するのが「人らしく生きる脳」です。③を見てください。きく脳、みる脳が育ちます。そして、触ってみて、ふわふわやチクチクなどの④体感触覚が育ちます。いろいろな物に興味を持ち、触ってみたい、なめてみようという意欲は、体を動かし⑤運動のバランスも育てていきます。その次は、⑥記憶する脳が育ちます。「いない、いない、ばあ～」を喜んだり、人見知りをするのは、記憶する脳が育ってきた証拠です。記憶ができると⑦言葉の理解ができるようになります。何かを伝えたい気持ちが育つことで⑧言葉を発するようになります。

そして最後に⑨総合的判断という脳が育ちます。これは、幼稚園や保育所など友達と一緒に遊ぶ中で育つ部分も大きいです。友達と遊ぶには、ルールが必要になります。いつも自分の思いどおりにはならず、がまんする力もついていきます。一緒に遊びを考えたり、何かを作ることで高度な脳は育ちます。

すべての脳は、体験によって学習し育っていきます。生活リズムや環境を整えることで、いろいろな体験をたくさんさせてあげましょう。